

中国の文化Ⅲ

日中文化交流史

第十三回 日中国交正常化と「二分論」



Q

この写真は、原爆が投下された長崎で撮影されたものである。写真の中の少年は何をしているのか？

長崎の原爆少年

〔解説〕

この写真を撮影したのは、米海兵隊の従軍カメラマン、ジョー・オグネルである。

一九四五年九月、佐世保に上陸した彼は、従軍カメラマンとして記録写真を撮る一方、私用カメラで広島、長崎の原爆の惨状を撮影した。

彼は後年、この少年を撮影した時のようすを著書の中でこう回想している。



Joseph Roger O'Donnell (1922-2007)

『トランクの中の日本』

「焼き場に一〇歳くらいの少年がやってきた。小さな体はやせ細り、ぼろぼろの服を着てはだしだった。少年の背中には二歳にもならない幼い男の子がくくりつけられていた」

ジョー・オグネル 『トランクの中の日本』

(小学館、一九九五年)



『トランクの中の日本』

「少年は焼き場のふちまで進むとそこで立ち止まる。係員は背中の幼児を下ろし、足元の燃えさかる火の上に乗せた。……少年は気を付けの姿勢で、じっと前を見つづけた。一度も焼かれる弟に目を落とすことはいない。軍人も顔負けの見事な直立不動の姿勢で彼は弟を見送った」

ジョー・オグネル 『トランクの中の日本』

(小学館、一九九五年)





カトリック教会のフランシスコ教皇は、二〇一八年末、教会関係者にこの少年の写真をカードにして配布した。

教皇はこの写真に「戦争の結果」というメッセージと自身のサインを添えた。



フランシスコ教皇(1936-)

日中戦争の被害者の実状を伝える

〔解説〕

アジア・太平洋戦争では、日本だけで計三一〇万人もの兵士や市民が犠牲となった。

一方、一九三七年から四五年までの八年にわたって続いた日中戦争では、計二一〇〇万人もの中国の兵士や市民が犠牲となったという。

一九七一年、日中国交正常化を前に、朝日新聞社の本多勝一記者は、中国を訪ねて被害者の実状を日本に伝えた。



中国の旅

本多勝一『中国の旅』（1972年）

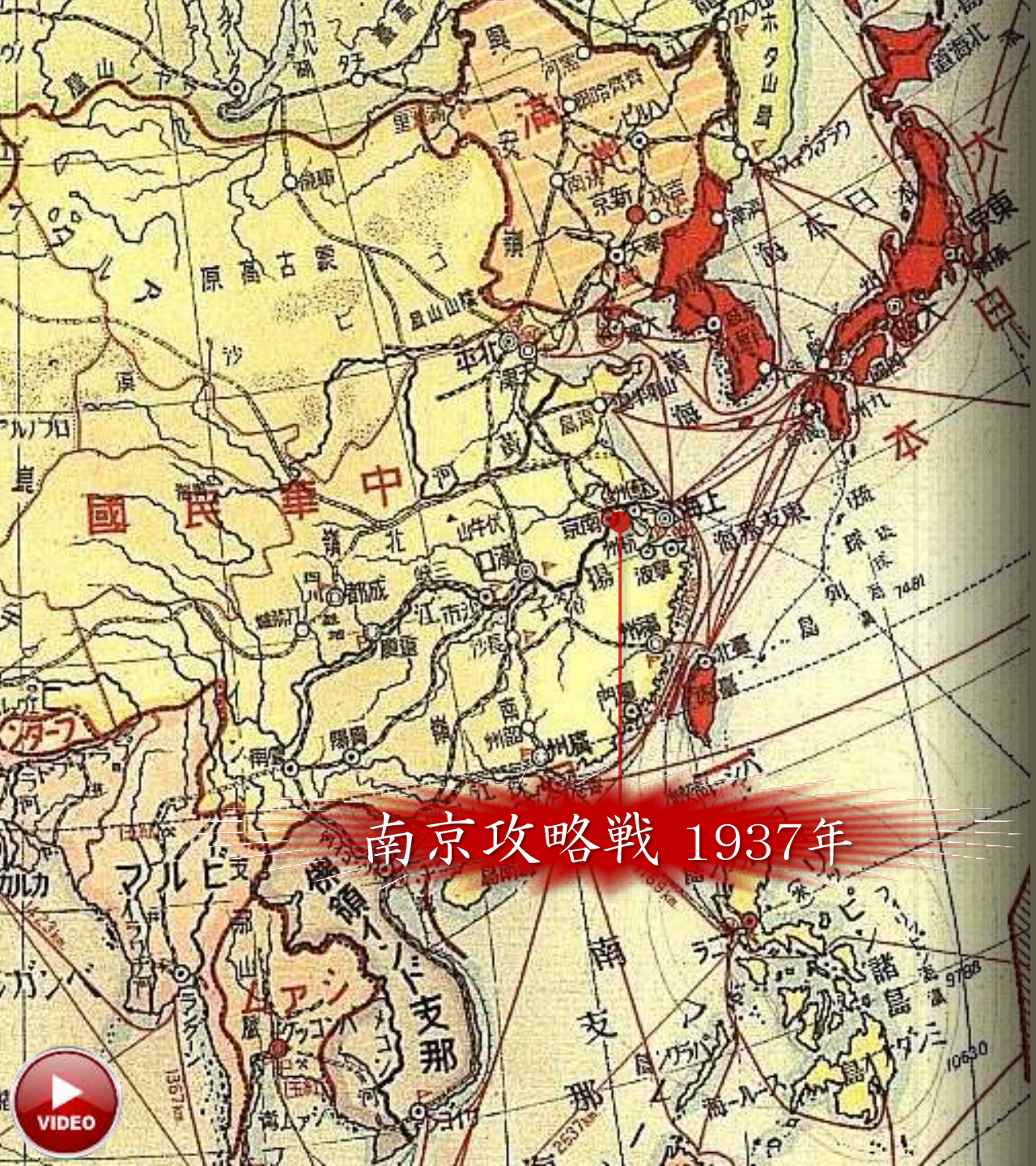
南京事件

〔解説〕

本多勝一記者が訪れた場所の一つに南京がある。

一九三七年、日本軍が当時中国の首都であった南京を攻略した際に、中国軍の捕虜や民間人を大量に殺害した場所である。

南京攻略戦 1937年





「NNNドキュメント15 南京事件 兵士たちの遺言」 (日本放送 2015年10月4日放送) より

南京事件で家族を奪われた少年

〔解説〕

南京を訪れた本多勝一記者は、南京事件の被害者から多くの証言を集めた。

その一人に日本軍に母親や姉を殺され、父親も連行されて孤児となった姜根福さんがいる。

姜根福さんの証言を本多記者は次のように伝えている。



姜根福さん(1929-2007)

本多勝一『中国の旅』

姜根福さんの一家は南京城の北西の城外、長江ぎわの下関地区に住んでいた。

貧乏な一家は家に住むこともできず、サンパンを住居とする水上生活者だった。父母と七人兄弟の九人家族。当時、九歳の姜さんを長男に、三人の弟と三人の姉がいた。

本多勝一『中国の旅』（朝日新聞社、一九七二年
文庫版、一九八一年、二三八頁）



姜根福さん(1929-2007)

本多勝一『中国の旅』

姜さんの父は、南京周辺を離れてしばらく農村に避難しようと考え、下関の川岸を離れた。

一家八人とわずかな家財をのせたサンパンはあまりにもボロボロだったため、ほんの二〜三キロ南へ進んだあたりで浸水してどうにもならなくなかった。

本多勝一『中国の旅』（朝日新聞社、一九七二年
文庫版、一九八一年、二三八〜九頁）



本多勝一『中国の旅』

サンパンを使えなくなった一家は、ここで仕方なく土手に上がった。

末子の弟は、まだ一歳余りの赤ん坊だった。空腹のあまり、母乳を求めて大声で泣いた。運悪く一〇人ほどの日本兵の隊列が土手の道を通りかかった。赤ん坊を抱いた母を見つけると、ひきずり出してその場で強姦しようとした。

本多勝一『中国の旅』（朝日新聞社、一九七二年
文庫版、一九八一年、二三九〜四〇頁）



本多勝一『中国の旅』

母は末子を抱きしめて抵抗した。怒った日本兵は、赤ん坊を母親の手からむしりとると、その面前で地面に力いっぱいたたきつけた。末子は声も出ずに即死した。半狂乱になった母親が、わが子を地面から抱き上げようと腰をかがめた瞬間、日本兵は母をうしろから撃った。鮮血をほとばしらせて、母は死んだ。

本多勝一『中国の旅』（朝日新聞社、一九七二年
文庫版、一九八一年、二四〇頁）



本多勝一『中国の旅』

父親と姉二人は息を殺してかくれていたが、日本兵の姿がみえなくなると走り寄ってきた。

血だまりの中に倒れている母と赤ん坊。ひざまずいて母の死体を抱きあげると、父は声をあげて泣いた。

恐怖のあまり身動きもできなかった姜少年たちも、このとき初めて、せきを切ったように泣きだした。

本多勝一『中国の旅』（朝日新聞社、一九七二年
文庫版、一九八一年、二四〇頁）



本多勝一『中国の旅』

母が殺されてから二〜三日後、また土手の上を通りかかった日本軍の一隊が、こんどは父のかくれている場所に気付いた。強引にひっぱりだした日本兵の一人は、自分の背囊を父にかつがせて連行した。

これが父の姿の最後だった。

本多勝一『中国の旅』（朝日新聞社、一九七二年
文庫版、一九八一年、二四〇頁）



本多勝一『中国の旅』

二日後、やはり通りかかった日本兵の一団が、子供たちに気付いた。アシの中へおりて来た。一三歳の姉が強姦の対象に選ばれた。アシの中の細い畔道を、少女は必死で逃げたが、「鬼子」たちの銃剣にかこまれて苦もなくつかまった。

本多勝一『中国の旅』（朝日新聞社、一九七二年
文庫版、一九八一年、二四〇頁）

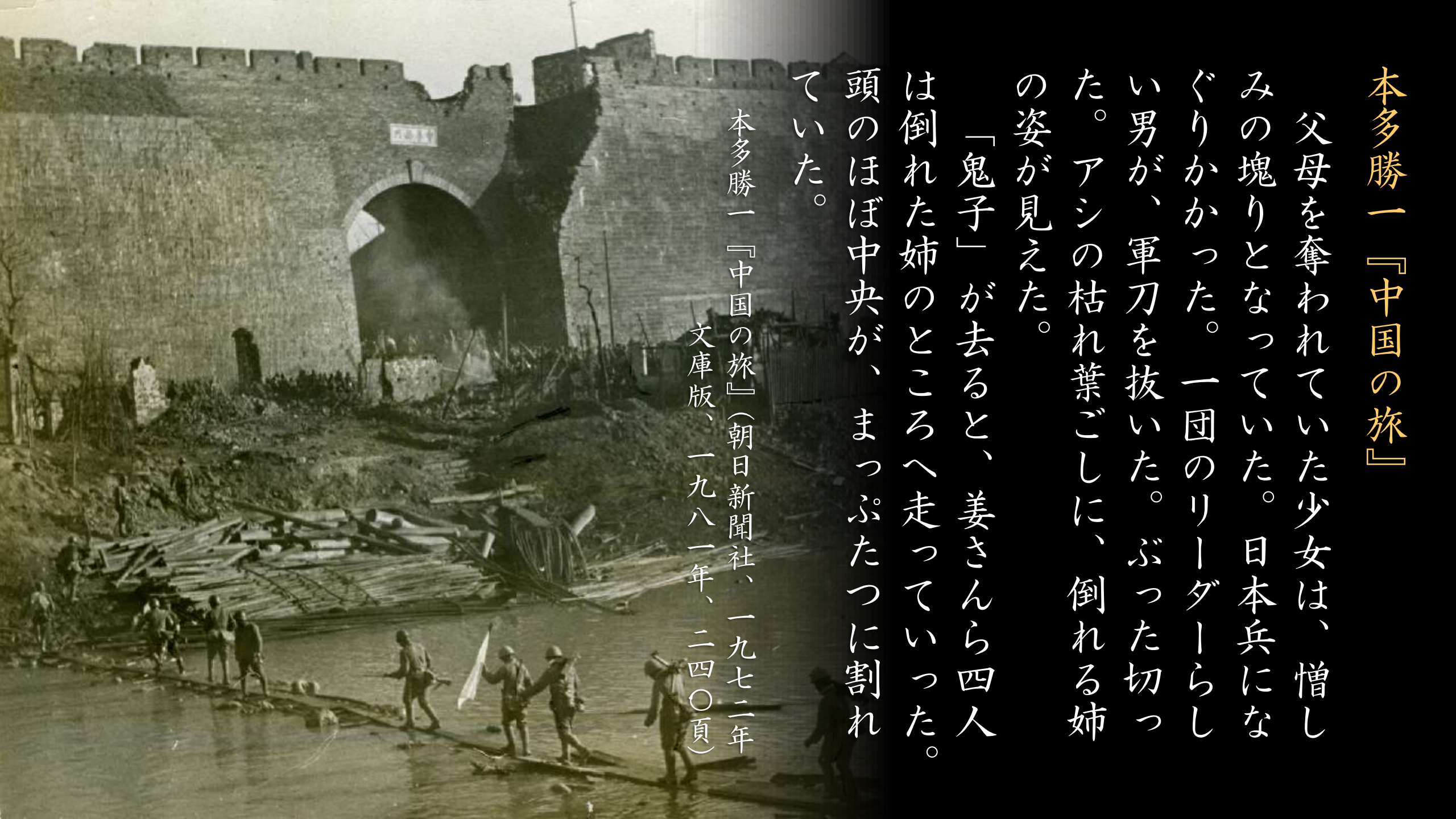


本多勝一『中国の旅』

父母を奪われていた少女は、憎しみの塊りとなっていた。日本兵になぐりかかった。一団のリーダーらしい男が、軍刀を抜いた。ぶった切った。アシの枯れ葉ごしに、倒れる姉の姿が見えた。

「鬼子」が去ると、姜さんら四人は倒れた姉のところへ走っていった。頭のほぼ中央が、まっふたつに割れていた。

本多勝一『中国の旅』（朝日新聞社、一九七二年
文庫版、一九八一年、二四〇頁）



一九三七年から終戦まで八年に及んだ日中戦争は、戦場となった中国の人々の心に大きな傷を残した。

一方、戦後の東西冷戦の中で、日本との早期講和を求めた中国政府は、「二分論」によって国民の理解を求め、七二年の国交正常化を実現した。

しかし、この「二分論」に対する日中双方の認識の違いが、やがて両国民の間に新たな対立を生じさせることになる。

今回の講義では、この「二分論」について考えてみたい。

A historical photograph showing three men in a formal setting. The man in the center, Mao Zedong, is wearing a light blue Mao suit and is shaking hands with a man on the right who is wearing a dark suit. The man on the left, Zhou Enlai, is also in a light blue Mao suit and is smiling. The man on the right is holding a large stack of papers or documents. The background is dark and indistinct.

目次

第一章 分断国家

第二章 二分論

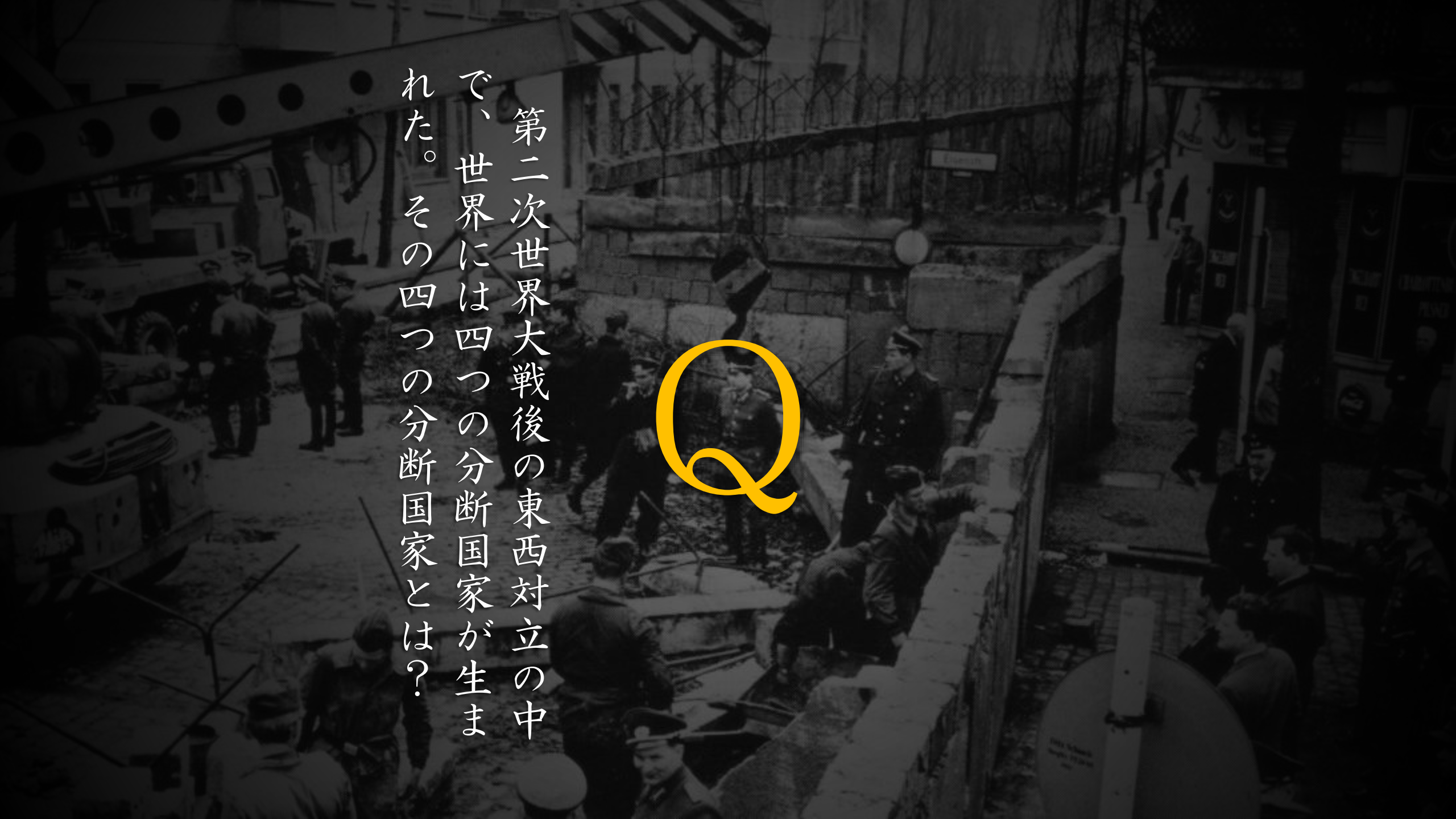
第三章 日中国交正常化交渉

A black and white photograph of a construction site. In the foreground, several workers in dark clothing are engaged in various tasks. Some are standing near a large, partially constructed stone wall, while others are working on the ground. In the background, a multi-story building is under construction, with visible structural elements like beams and windows. The scene is busy and industrial. The text '第一章 分断国家' is overlaid in the center of the image.

第一章 分断国家

第二次世界大戦後の東西対立の中で、世界には四つの分断国家が生まれた。その四つの分断国家とは？

Q



年、東西ドイツは九〇年に統一したが、日本の旧植民地であった二つの国家はいまも分断状態にある。

- ① 東ドイツと西ドイツ
- ② 北ベトナムと南ベトナム
- ③ 北朝鮮と韓国
- ④ 中国と台湾

この中、南北ベトナムは一九七五

〔解説〕

分断国家とは、

東西対立の中で生まれた分断国家



近代以降の日中関係

〔解説〕

東アジアの分断は、なぜ起こったのか。はじめに近代以降の日中関係を振り返ってみよう。

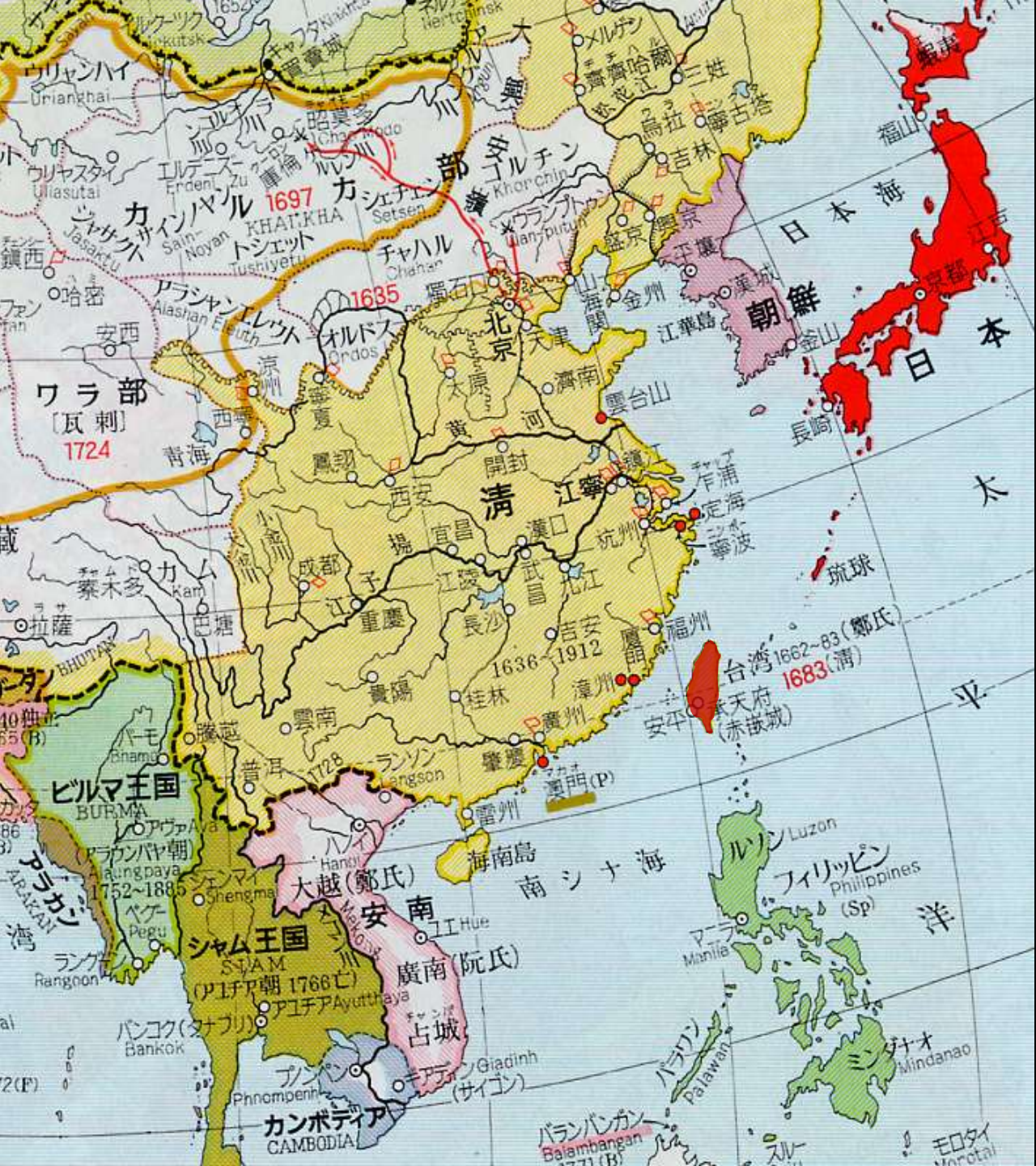


近代以降の日中関係

〔解説〕

明治維新によっていち早く近代化を実現した日本は、朝鮮半島への影響力を拡大するため、一八九四年、朝鮮の宗主国であった清との間で戦争を起こした。(日清戦争)
この戦争に勝利した日本は、最初の植民地となる台湾を獲得した。





70
80
90
1900
10
20
30
40
50
60
70
80
90
2000
10

清 1616-1912

明治時代
1868~1912

日清戦争 1894-95

大正時代
1912~1926

中華民国
1912~

昭和時代
1926~1989

中華人民共和国
1949~

平成時代
1989~2019

令和時代 2019~

近代以降の日中関係

〔解説〕

一九〇五年、日露戦争に勝利した日本は、南下政策を進めていたロシアの朝鮮半島への影響力を排除し、一九一〇年、朝鮮半島を植民地化した（日韓併合）。



近代以降の日中関係

〔解説〕

一九三一年、日本軍の現地部隊が南満州鉄道を爆破し、これを利用して、中国東北部を占領した（柳条湖事件）。

一九三二年、日本の特務機関は清朝の廢帝・溥儀を擁立し、中国東北部に傀儡国家・満州国を建国した。



近代以降の日中関係

〔解説〕

一九三七年、北京郊外の盧溝橋で日中両軍が衝突すると、日本はこれを契機として中国との本格的な戦争を開始した（盧溝橋事件）。

前述の姜根福さん一家の悲劇が起こったのは、日本軍が首都南京を攻略した同年十二月のことである。



近代以降の日中関係

〔解説〕

一九四五年、日本は終戦を迎えたが、中国はその後にも戦禍が続いた。終戦からわずか一年後の一九四六年、中国共産党と中国国民党との間で内戦が勃発した（国共内戦）。



近代以降の日中関係

〔解説〕

一九四九年、内戦に勝利した共産党は、中華人民共和国の建国を宣言した。

一方、内戦に敗れた国民党は、台湾に逃れ、台北に亡命政府を建てた。





一九五二年、日本は中国との講和のため、日華平和条約を結ぶ。このとき条約の締結国となったのは、どちらの政府か？

② 中華民国(台湾)

① 中華人民共和国(北京)

近代以降の日中関係

〔解説〕

一九五〇年六月、朝鮮戦争が勃発した。同年十一月、劣勢に陥っていた北朝鮮を支援するため、中国が参戦したことで、西側(資本主義)と、東側(社会主義)の両陣営による代理戦争へと発展した。


アジアでの東側(社会主義)の勢力拡大を恐れた米国は、台湾の国民政府に日本との早期講和を求め、五二年、日華平和条約が締結された。





戦後の東西対立の中で、アジアには三つの分断国家が生まれたが、この中、東側（社会主義陣営）に属したのはどの三つの国か？

- 中華人民共和国
- 朝鮮民主主義人民共和国
- ヴェトナム民主共和国

A black and white photograph of a war-torn city. The scene is filled with rubble and debris, including wooden planks and twisted metal. In the background, a large stone archway is visible, partially obscured by the wreckage. Several people are walking through the street, some carrying items on their heads or backs. The overall atmosphere is one of desolation and the aftermath of conflict.

第二章 二分論

中国の対日政策の基本方針Ⅱ二分論

〔解説〕

一九四九年、国共内戦に勝利し、中華人民共和国を建国した共産党にとって、残された最大の課題は、国民党が亡命政府を置く台湾の「解放」であった。

日本が台湾との間で結んだ日華平和条約を破棄させ、日中間の国交を正常化するため、中国共産党は対日政策の基本方針を定めた。



中国共産党が日本との国交正常化を実現するため定めた対日政策の基本方針とは？

①日本の戦争責任を明らかにし、被害を受けた国民への賠償を請求する

②戦争責任はごく少数の軍国主義者であり、多くの日本国民はその犠牲者と考え賠償を放棄する

Q





NHK 「日中は歴史にどう向き合えばいいのか」(2006年)



第三章 日中国交正常化交渉

中ソ対立と米中接近

〔解説〕

一九五六年、ソ連のフルシチョフ書記長によるスターリン批判を契機として始まった中ソ対立は、六〇年の経済技術援助協定の破棄、六九年の珍宝島での中ソ国境をめぐる武力衝突へと発展する。

ソ連との対立を深める中国に対し、米国は七一年にキッシンジャー大統領補佐官、七二年にはニクソン大統領が訪中して米中接近が始まった。





ソ連

中ソ対立
1956-89

蒙古人民共和国
MONGOLIA
1924 独立
1945 国民政府承認

朝鮮民主主義人民共和国
1948.9

大韓民国
1948.8

中華人民共和国
1949.10 中国共産党政府成立

中華民国

キッシンジャー訪中 1971

ビルマ共和国
BURMA
1948.1

ベトナム戦争
1964-75

ベトナム共和国
VIET NAM
1950.2 共和国成立
1955.10 共和国成立

カンボディア王国
KAMBODIA
1949



70
80
90
1900
10
20
30
40
50
60
70
80
90
2000
10

清 1616-1912

明治時代
1868~1912

中華民国
1912~

大正時代
1912~1926

中華人民共和国
1949~

昭和時代
1926~1989

平成時代
1989~2019

令和時代 2019~



NHK 「日中は歴史にどう向き合えばいいのか」(2006年)



田中角栄（一九一八〜九三）

〔解説〕

一九一八年（大正七年）、新潟県に生まれる。

三六年、中央工学校土木科を夜学で卒業。

三九年、応召し、満州国で陸軍に入隊。

四一年、病気により帰国。

戦後、政界に入り、七二年、自民党総裁選に当選、五四歳で第六代内閣総理大臣となる。



衆議院予算委員会での田中角栄答弁

「（私も）満ソ国境へ一兵隊として行って勤務したことがあります。

：：日中国交正常化の第一番目に、たいへん御迷惑をかけました、心からおわびをしますという気持ち、やはりこれが大前提になければならないという気持ちは、いまも将来も変わらないと思います」*

衆議院予算委員会での質問に答えて

『第六八回国会衆議院予算委員会第四分科会議事録第四号』（一九七二年三月二三日）

* 当時、佐藤栄作内閣の通商産業大臣であった田中角栄の答弁



Q

一九七二年七月、内閣総理大臣となった田中角栄は、同年九月二五日、国交正常化交渉のため、中国を訪問した。

ところが、晩餐会のスピーチで一言が、中国側の思わぬ反発を招くことになる。その一言とは次の中のどれか？

Q

「過去数十年にわたって、日中関係は遺憾ながら不幸な経過を辿って参りました。この間、我が国が中国国民に多大のご迷惑をおかけしたことについて、私は改めて深い反省の念を表明するものであります。」

田中角栄首相、歓迎晩餐会でのスピーチ

(一九七二年九月二五日)





NHK 「日中は歴史にどう向き合えばいいのか」(2006年)



Q

なぜ「迷惑」という言葉が、中国側の反発を招いたのか？





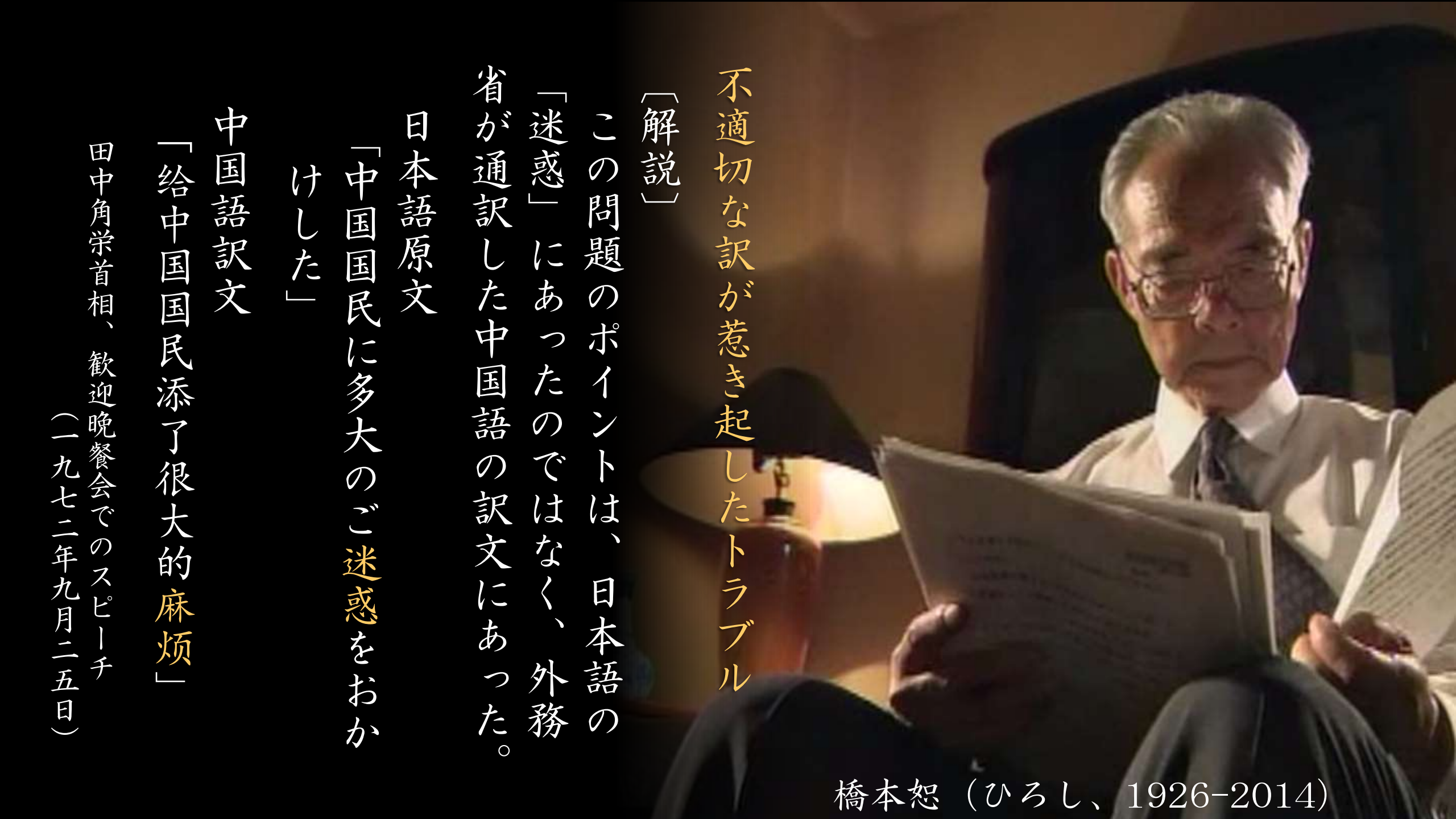
NHK 「日中は歴史にどう向き合えばいいのか」(2006年)

あなたは外務省の中国課長であつた橋本恕氏の意見についてどう思いますか？

Q

橋本恕（ひろし、1926-2014）





不適切な訳が惹き起したトラブル

〔解説〕

この問題のポイントは、日本語の「迷惑」にあったのではなく、外務省が通訳した中国語の訳文にあった。

日本語原文

「中国国民に多大のご迷惑をおかけした」

中国語訳文

「给中国国民添了很大的麻烦」

田中角栄首相、歓迎晩餐会でのスピーチ

(一九七二年九月二五日)

橋本恕 (ひろし、1926-2014)

服部龍二『日中国交正常化』

田中首相のスピーチを通訳した小原育夫氏は、後年、この訳について次のように語っている。

「忠実に（通訳）するのが我々の役目で、むしろ日本語にない謝り方をすることのほうが大変な誤訳：：けれども常識的に考えて、これがこのまま正常化の最終的な文書に行き着く表現になるとは思いませんよね」

服部龍二『日中国交正常化』

（中公新書二〇一一年一四三頁）

矢吹晋『日中の風穴』

「日本語の『迷惑』を用いることについて橋本が精魂を傾けた事情は理解できることだ。だがここで問われているのは、日本語の原文そのものではなく、それをどのように訳したかなのだ……」

矢吹晋『日中の風穴 未来に向かう日中関係』

(勉誠出版二〇〇四年五四頁)



矢吹晋 『日中の風穴』

「……橋本がもし日本語原文の推敲に費やしたエネルギーの一割でも、中国語訳文の推敲に費やしていたならば、歴史的誤解は避け得たのだ。この意味では中国語を解しない中国課長の限界というほかない」

矢吹晋 『日中の風穴 未来に向かう日中関係』

(勉強出版二〇〇四年五四頁)

橋本恕 (ひろし、1926-2014)



Q

あなたが首相だったら、この後、
中国とどのように交渉を進めます
か？



田中角栄 「日中の課題は信義と両国民の自由な往来だ」

田中首相は後年、このときの対応について次のように語っている。

「ご迷惑をかけたという言葉は、そんな軽々しい内容のものではない。ご迷惑をかけたという日本語の意味は、あなたが解釈しているような、ごめんなさいという程度のものではない。わたしは、わたしの誠心誠意を込めて、申し訳ないという心情をそのまま表現した……」

田中角栄 「日中の課題は『信義』と両国民の『自由な往来』だ―いま初めて明かす日中国交回復の秘話」 (宝石第一二巻第一一号、一九八四年)



田中角栄 「日中の課題は信義と両国民の自由な往来だ」

「……すると、周総理はウーンと低くうなっていたが、それ以上の要求は一切しなかった……『わかりました。言葉尻をとってあげつらうのはやめにします。言葉尻ではなくもつと重要な問題があるのだから……』と話を切り替えてきた。」

田中角栄 「日中の課題は信義と両国民の自由な往来だ——いま初めて明かす日中国交回復の秘話」
(宝石第一二巻第一一号、一九八四年)



NHK 「日中は歴史にどう向き合えばいいのか」(2006年)より



70
80
90
1900
10
20
30
40
50
60
70
80
90
2000
10

清 1616-1912

明治時代
1868~1912

大正時代
1912~1926

中華民国
1912~

日華平和条約
1952 昭和時代
1926~1989

日中国交正常化 1972

中華人民共和国
1949~

平成時代
1989~2019

令和時代 2019~

日中国交正常化は、賠償請求権を放棄するなど、日本側に大きく譲歩したものだ。

では中国側は、戦争で被害を受けた国民の理解を得るために、どのような対策を講じたのか？

Q





NHK 「日中は歴史にどう向き合えばいいのか」(2006年)

「二分論」による国交正常化

〔解説〕

日中国交正常化を実現するため、中国政府はこの「二分論」によって、戦争被害を受けた国民の説得に当たった。

前述の姜根福さんも、一九七一年、本多勝一記者の取材に答えてこう述べている。



姜根福さん(2003年12月12日撮影)

「二分論」による国交正常化

「中国で犯した日本の罪悪は、軍国主義の罪悪であって、日本人民の罪ではありません。私たちがこうして過去の体験をあなたにお話したのは、日本人民に対する中国人民の友誼のあらわれでもあるのです」

本多勝一『中国の旅』（朝日新聞社、一九七二年
文庫版、一九八一年、二六二頁）



姜根福さん(2003年12月12日撮影)

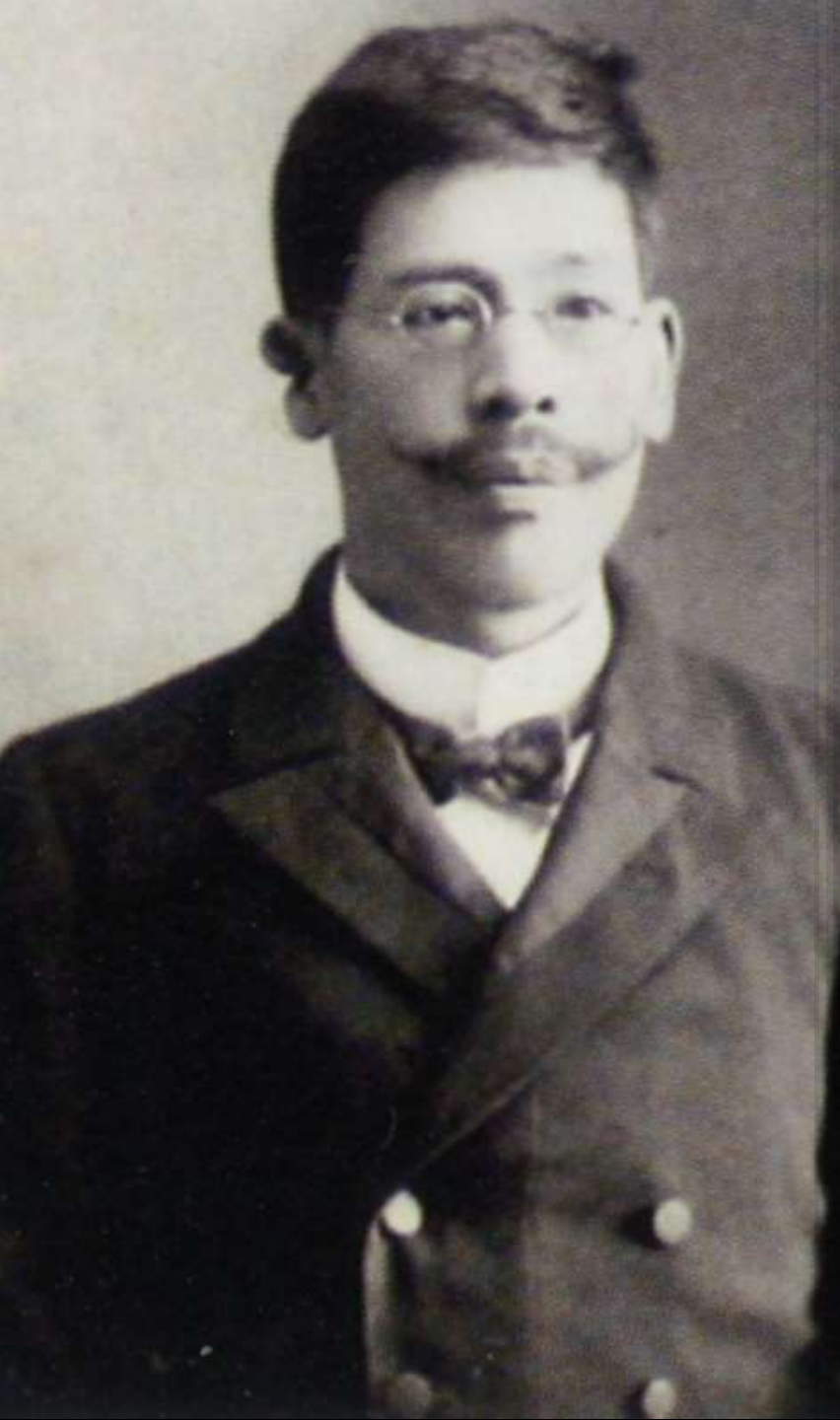


なぜ中国の国語教科書には魯迅の
「藤野先生」が載せられているの
か？





中国は戦後、対日政策の原則を「一部の軍国主義者」と「大多数の国民」に分ける「二分論」と定めた。この原則に従い学校教育の場でも、歴史教育では日本の軍国主義者の非道さを伝える一方、国語教育では「藤野先生」を通じて日本の一般国民の善良さを伝えている。





「藤野先生」は、日本国民の善良さ、誠実さを伝える作品として、いまも中国の中学校語文(国語)教科書に収録され、この作品を通じて毎年一六〇〇万人の中学生が日中友好の大切さを学んでいる。



参考文献

- ジョー・オダネル、ジェニファアール・オルドリッチ『トランクの中の日本く米従軍カメラマンの非公式記録』（小学館一九九五年）
- 本多勝一『中国の旅』（朝日新聞社、一九七二年、文庫版一九八一年）
- 時事通信政治部編『ドキュメント 日中復交』（時事通信社一九七二年）
- NHK取材班『周恩来の決断』（日本放送出版協会一九九三年）
- 『日中国交正常化・日中平和友好条約締結交渉』（岩波書店二〇〇三年）
- 服部龍二『日中国交正常化―田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』（中公新書二〇一一年）